

平安京右京二条三坊十五町跡

2013年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京右京二条三坊十五町跡

2013年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、道路拡幅工事に伴う平安京跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

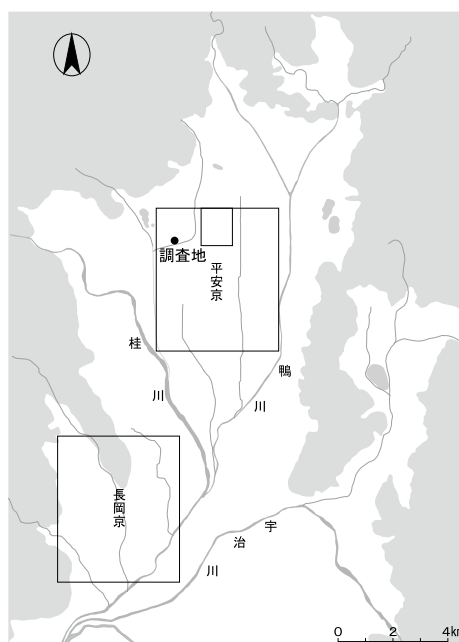
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成25年12月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|--|
| 1 遺 跡 名 | 平安京跡（文化財保護課番号 94 H 604） |
| 2 調査所在地 | 京都市右京区花園春日町地内 |
| 3 委 託 者 | 京都市 代表者 京都市長 門川大作 |
| 4 調査期間 | 2013年7月16日～2013年8月28日 |
| 5 調査面積 | 144㎡ |
| 6 調査担当者 | 津々池惣一 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「花園」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 津々池惣一 |
| 14 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。 |



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 遺跡の環境	3
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	5
(1) 遺構の概要	5
(2) 1区の遺構	5
(3) 2区の遺構	9
4. 遺 物	10
(1) 遺物の概要	10
(2) 土器類	10
5. ま と め	13

図 版 目 次

図版1	遺構	1	1区南半全景（北東から）
		2	1区北半全景（北西から）
図版2	遺構	1	2区南半全景（北から）
		2	2区北半全景（南から）
図版3	遺構	1	1区南半 溝43（東から）
		2	2区南半 溝1（南から）
		3	2区北半 溝23（東から）
		4	2区北半 土坑20（東から）

挿 図 目 次

図1	調査地および周辺の調査位置図（1：2,500）	1
図2	調査区配置図（1：300）	2
図3	1区調査前全景（南から）	3
図4	2区調査前全景（南東から）	3
図5	作業風景（北から）	3
図6	1区遺構実測図（1：100）	6
図7	1区柱列実測図（1：50）	7
図8	1区溝43断面図（1：40）	7
図9	2区遺構実測図（1：100）	8
図10	2区溝1・18・23断面図（1：40）	9
図11	出土土器実測図（1：4）	11
図12	溝1出土土器	12
図13	2011～2013年度調査区配置図1（1：300）	15
図14	2011～2013年度調査区配置図2（1：300）	16
図15	2011～2013年度調査区配置図3（1：300）	17
図16	2011～2013年度調査区配置図4（1：300）	18
図17	2011～2013年度調査区配置図5（1：300）	19

表 目 次

表1	周辺の調査一覧表	4
表2	遺構概要表	5
表3	遺物概要表	10

平安京右京二条三坊十五町跡

1. 調査経過

調査地は京都市右京区花園春日町地内に位置し、平安京跡の右京二条三坊十五町にあつている。今回の調査は、京都市建設局道路建設部道路建設課（以下「道路建設課」という。）による丸太町通から太子道通間の西小路通の拡幅工事（3・4・161西小路通拡幅工事）に伴うもので、その3年度目にあたる。発掘調査は京都市埋蔵文化財研究所が担当し、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「文化財保護課」という。）の指導のもとに実施した。これまでの調査では恵止利小路の西側溝と路面の一部を検出し、その他にも平安時代の柵列や井戸、門、橋、平



図1 調査地および周辺の調査位置図（1：2,500）

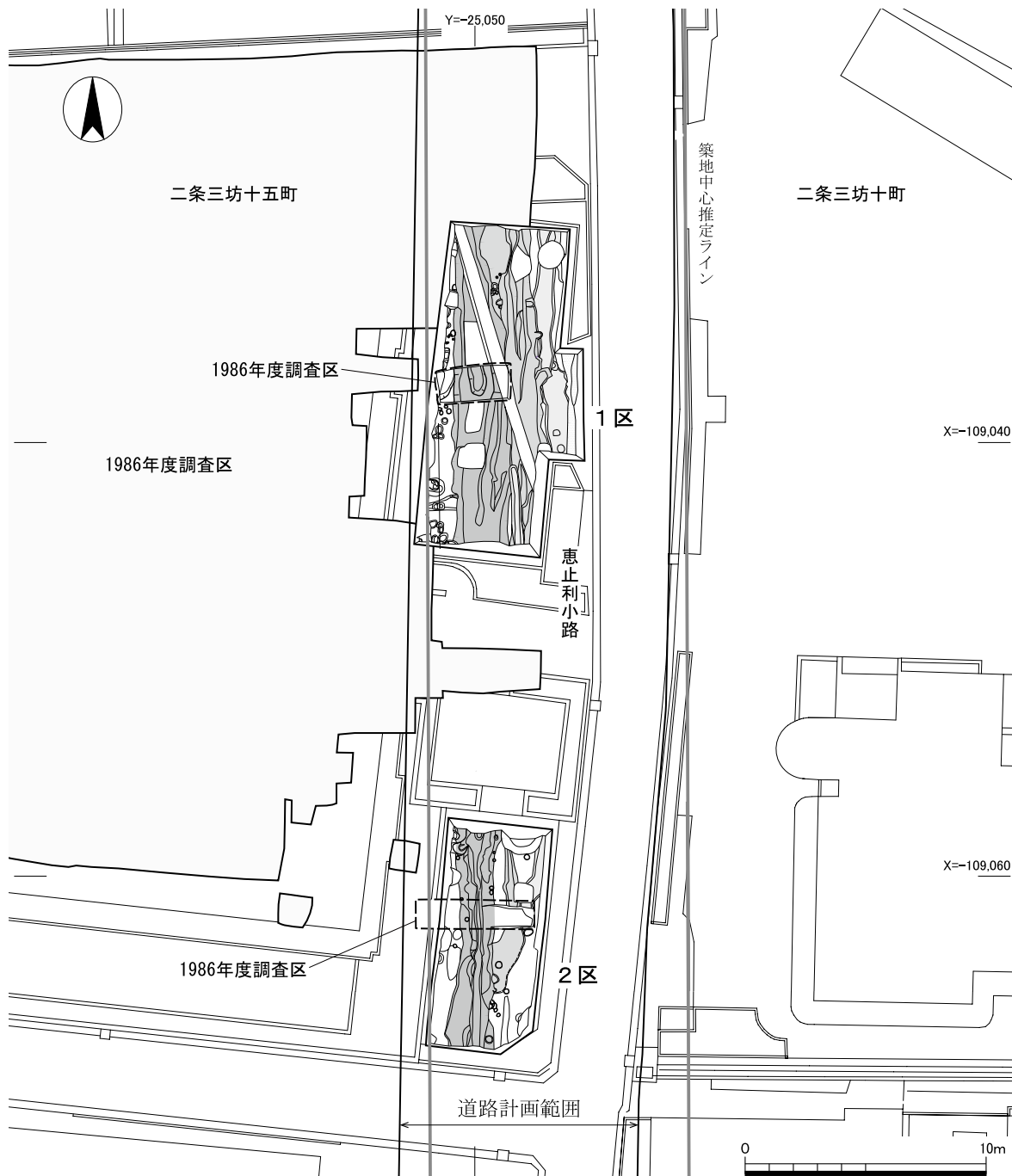


図2 調査区配置図 (1 : 300)

安時代以降の溝などの遺構が検出されている。それらの成果を踏まえ、今回の調査では恵止利小路に関連する遺構の検出につとめた。

調査区は2箇所あり、北側を1区、南側を2区とした。調査はまず2区、続いて1区の順で行った。それぞれの調査区とも反転調査を実施した。2区は東西5.0m、南北11.0mの長方形、1区は東西約5.7m、南北14.7mの長方形の東側に凸部分を加えた形で、合計の面積は144㎡である。7月16日から調査を開始し、重機で遺構面まで掘削の後、人力による作業を行った。8月28日までに図面・写真などの記録を行い、調査を終了した。なお、調査期間中、文化財保護課の臨検を適宜に受けた。また、8月12日に検証委員の視察を受けた。

2. 位置と環境

(1) 遺跡の環境

調査対象地は花園春日町に所在し、この付近は京都盆地の北西部にあたる。調査地付近の標高は約40mである。調査地は紙屋川の西側に形成された扇状地上に位置する。調査地一帯は昭和初期に宇多川や天神川が改修されるまでは、洪水の影響が顕著であったとされている。江戸時代から戦前までの古地図などによると耕作地として示されている。調査区が面する西小路通は江戸時代には木辻村と西ノ京村の境界路であり、現在は右京区と中京区の境界となっている。

右京二条三坊付近は、鎌倉時代の『拾芥抄』では、十一町に前肥前守藤原成季領、十四町に月輪寺領と記されている。また、江戸時代の「中古京師内外地図」（寛延3年：1750）や「平安京図」（寛政3年：1791）には前肥前守藤原成季領が十・十一両町に、月輪寺領が十五町に記載されている。調査地東側では、東側の十・十一町は前肥前守藤原成季領、西側の十五町は月輪寺領に該当する可能性がある。

調査区に関わる近辺の条坊路には恵止利小路、中御門大路、春日小路、大炊御門大路がある。恵止利小路は、『九条家本「延喜式」右京図』に「恵去利小路」と書き入れてあるのを初見に様々な呼称がある。中御門大路は平安宮西側に開く藻壁門から西に延びる大路である。花園藪ノ下町と花園八ツ口町の境界線である現東西道路が該当する。大炊御門大路は平安宮西側に開く談天門から西に延びる大路である。花園春日町と西ノ京藤ノ木町の境界線である現東西道路が該当する。春日小路は藻壁門と談天門の間から西に延びる。花園八ツ口町と花園春日町の境界線である花園大学以西に延びる現東西小道がその痕跡であろう。



図3 1区調査前全景（南から）



図4 2区調査前全景（南東から）



図5 作業風景（北から）

(2) 周辺の調査 (図1、表1)

調査地の周辺では平安時代前期から中期にかけての建物跡や条坊路の側溝などが多く検出されている。ここでは恵止利小路、中御門大路、大炊御門大路や近辺の宅地に関わる既往の調査について述べる。

調査1では、恵止利小路西側溝推定位置とその東に2条の南北溝検出している。また、調査2では、推定位置とその西に1条の南北溝を検出し、恵止利小路の廃絶時期を10世紀の中頃としている。さらに、調査3では推定位置と西に1条の南北溝を検出している。そして、今回の関連事業である調査17・18では、恵止利小路西築地推定位置付近で側溝および築地関連施設などを連続して検出した。これらの調査で検出した溝はすべて西側溝であり、東側溝の調査例はない。また、調査3では右京の西大宮大路、道祖大路、宇多小路、木辻大路など南北方向の条坊路の多くが平安時代中期後半以降には流路化していたことも判明した。

中御門大路に関する調査では、調査3で両側溝を条坊推定位置で検出している。また、調査5で

表1 周辺の調査一覧表

No.	遺跡名	調査機関	文献
1	右京二条三坊十五町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『平安京跡発掘調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年
2	右京二条三坊十六町	花園大学考古学研究室	『花園大学構内調査報告V』花園大学 1998年
3	右京一条三坊、二条二・三坊	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年
4	右京二条三坊一町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『平成8年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1998年
5	右京二条三坊八町	花園大学考古学研究室	『花園大学構内調査報告VII』花園大学考古学研究室 2010年
6	右京一条三坊五町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1983年
7	右京一条三坊五町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『昭和57年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1984年
8	右京二条三坊一町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年
9	右京二条三坊九町	花園大学考古学研究室	『花園大学構内調査報告I』花園大学 1984年
10	右京二条三坊九町	花園大学考古学研究室	『花園大学構内調査報告IV』花園大学 1993年
11	右京二条三坊七町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1988年
12	右京二条三坊八町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1983年
13	右京二条三坊八町	古代文化調査会	『平安京右京二条三坊八町跡 現地説明会資料』
14	右京二条三坊九町	花園大学考古学研究室	『花園大学構内調査報告VI』花園大学 1998年
15	右京二条三坊七町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『昭和53年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2011年
16	右京二条三坊十一町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『平安京跡発掘調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1984年
17	右京一条三坊十三町・二条三坊十六町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『平安京右京一条三坊十三町・二条三坊十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2011-4 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年
18	右京二条三坊十五・十六町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『平安京右京二条三坊十五・十六町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-14 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2013年
19	右京二条四坊一町	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	『京都市内遺跡発掘調査報告 平成24年度』京都市文化市民局 2013年

は右京二条三坊八町北の中御門大路南側溝を推定位置で新旧2条検出している。また、調査17では中御門大路の南側溝と路面を検出している。

春日小路に関する調査では、調査15で南側溝とみられる溝と礫敷きの路面を検出している。また、調査18では春日小路との交差点路面を検出している。さらに、調査10および調査2でも、春日小路南側溝などを検出している。

大炊御門大路の遺構は、調査18で交差点推定部で路面を検出した。また、調査15で大炊御門大路の北側溝を新旧2時期検出している。

恵止利小路西側に位置する十五町宅地内を調査1で、十六町を調査2で、九町を調査9・10・14で行った。いずれも、9～10世紀半ばまでの建物群などを3時期にわたって検出している。これらの建物群は11世紀以降廃絶しており宅地が耕作地化したことが明らかになった。

3. 遺 構

(1) 遺構の概要

調査地の基本層序については、1区北壁が顕著な状況を示している。ここでは現代盛土が地表下0.2～0.4mの厚さで、その下は耕作土層が0.5～0.6mまであり、それ以下は砂礫層の地山となっている。今回の遺構はすべて地山上面で検出した。

調査の結果、平安時代前期から中期の恵止利小路西側溝・柱列など、および平安時代中期から後期の溝群、そして鎌倉時代の溝や土坑などを検出した。なお、平安時代中期から後期の溝としたものは、遺物は出土していないが、調査区西側の平安時代前期から中期の溝と調査区東端の鎌倉時代の溝・土坑との位置や重複関係から推定した。以下に、その概略を記述する。

(2) 1区の遺構（図6、図版1）

平安時代前期から中期（9～10世紀）

溝1 調査区西半で南北方向に調査区の南北全域にわたって検出した。規模は、幅2.0m前後、深さは南壁付近で0.6mある。恵止利小路西築地心推定線より東へ約1mの位置にあり、同小路西側

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	
	1 区	2 区
平安時代前期～中期 (9～10世紀)	溝1・溝43 柱列(柱穴42・41・47)	溝1・溝23
平安時代中期～後期 (11～12世紀)	溝34・溝36・溝40	溝18・溝21
鎌倉時代	溝62	土坑20

- 1 盛土
- 2 2.5Y4/4~4/6 オリーブ褐色砂泥、φ4cmまでの礫中量、炭・土師器片少量含
- 3 10YR4/4 褐色砂泥、10YR5/8 黄褐色砂泥、φ2cmまでの礫少量含
- 4 10YR3/3 に近い黄褐色砂泥、φ4cmまでの礫・炭少量含
- 5 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥、φ3cmまでの礫・炭・土師器片少量含
- 6 2.5Y3/3 オリーブ暗褐色砂泥、φ4cmまでの礫多量、炭少量含
- 7 10YR4/4 褐色砂泥
- 8 10YR4/4 暗褐色砂泥
- 9 10YR3/4 暗褐色砂泥、φ6cmまでの礫中量、炭・土師器片少量含
- 10 10YR4/4 褐色砂泥、φ6cmまでの礫中量、炭・土師器片少量含

- 11 10YR4/4 褐色砂泥、炭・土師器片少量含
- 12 10YR4/4 褐色砂泥、φ3cmまでの礫・炭・土師器片少量含
- 13 10YR5/4 に近い黄褐色砂泥、炭・土師器片少量含
- 14 10YR4/3 に近い黄褐色砂泥、炭・土師器片少量含
- 15 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 16 7.5YR4/4 褐色砂泥、炭・土師器片少量含
- 17 10YR3/4 暗褐色砂泥
- 18 10YR4/6 褐色砂泥
- 19 10YR4/4 褐色砂泥、炭・土師器片少量含
- 20 10YR6/3 に近い黄褐色砂泥、黄色粘質土混

- 21 10YR4/4 褐色砂泥、炭・土師器片含
- 22 10YR5/4 に近い黄褐色砂泥、淡黄色泥砂混
- 23 10YR4/6 褐色砂泥、炭・土師器片少量含
- 24 10YR3/4 暗褐色砂泥
- 25 10YR3/3 暗褐色砂泥、炭中量、土師器片少量含
- 26 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂泥、炭・土師器片少量含
- 27 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 28 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂泥
- 29 2.5Y8/4 淡黄色泥砂
- 30 10YR6/8 明黄褐色砂泥

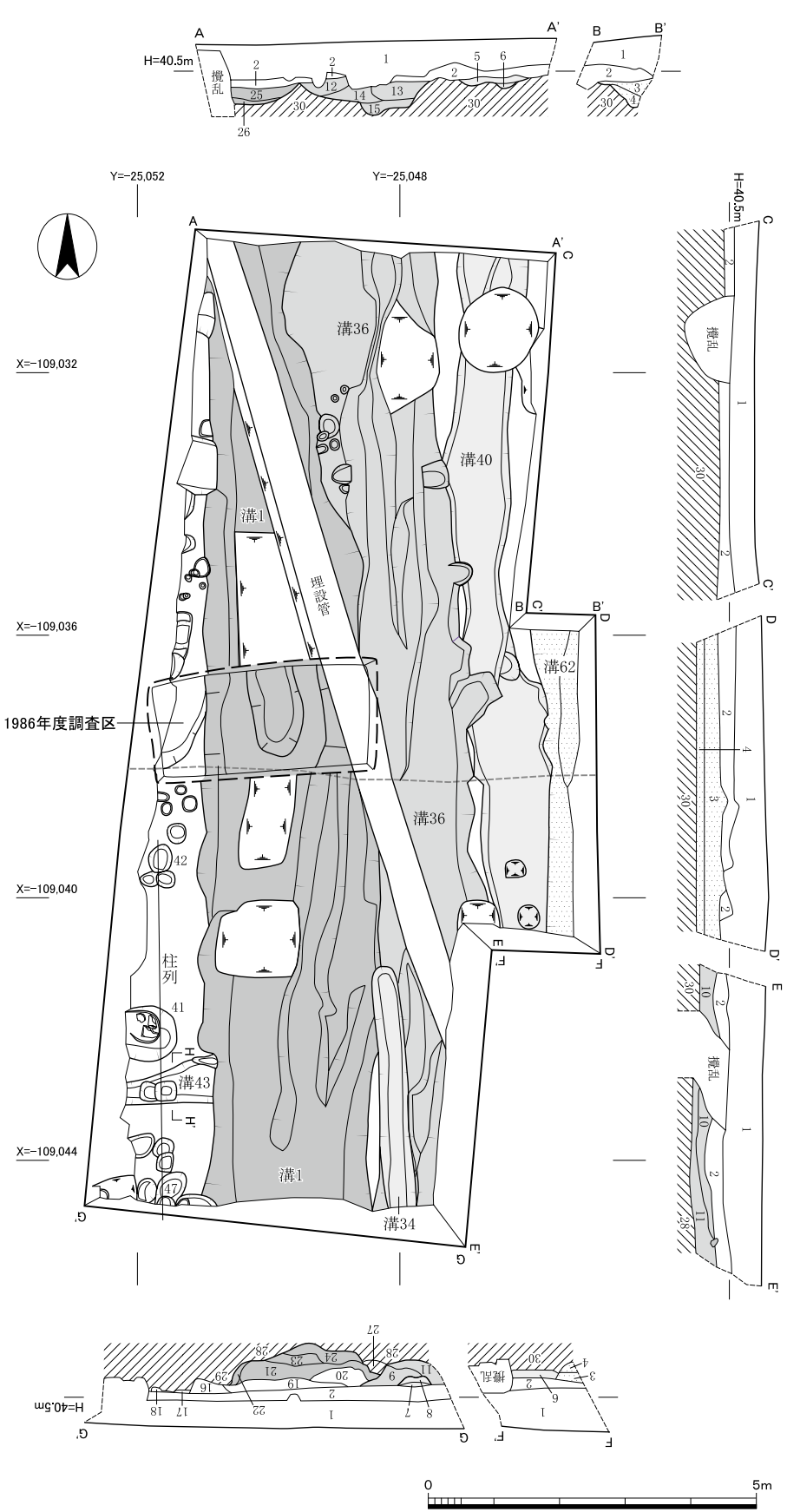


図6 1区遺構実測図(1:100)

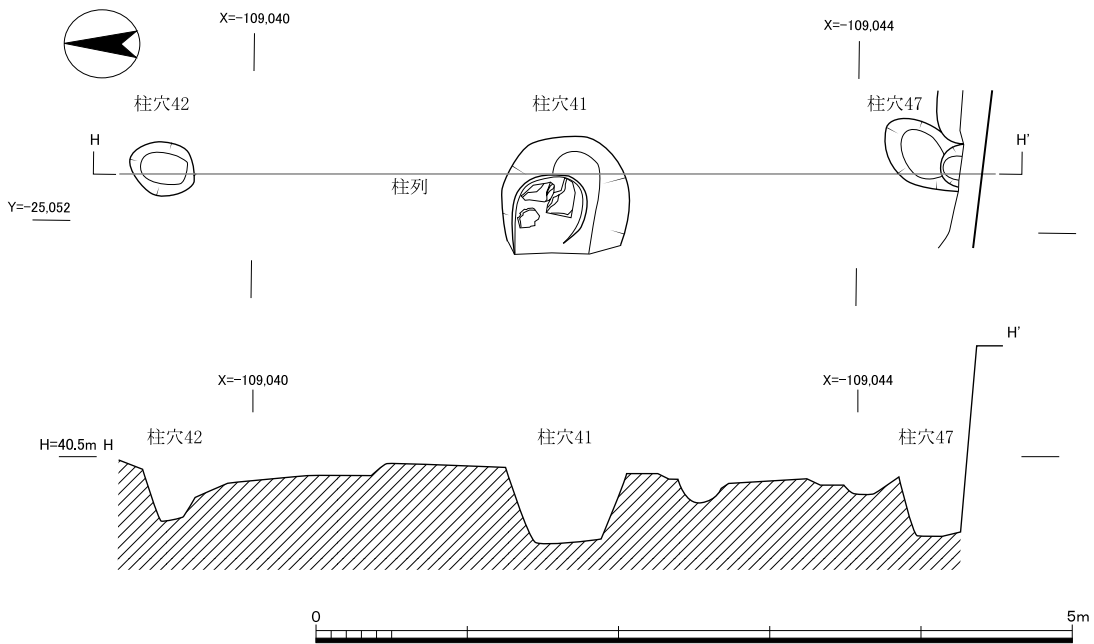
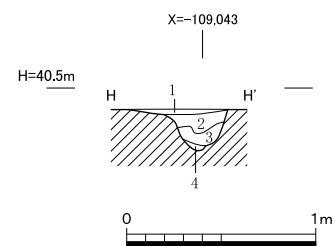


図7 1区柱列実測図（1：50）

溝にあたると思われる。

溝43(図8、図版3) 調査区南西部で検出した東西方向の溝である。検出長0.9m、幅0.5～0.8m、深さ0.3mある。東端は溝1に接続しており、十五町宅地側からの排水施設の可能性がある。

柱穴列(柱穴42・41・47)(図7) 溝1の西側に平行して2間分を検出した。柱掘形は0.3～0.5mの円形、柱間は2.4mである。恵止利小路西築地心推定線から東へ0.4mの位置にあたるが、築地あるいは柵に関連した遺構と考えられる。



- 1 10YR4/4 褐色砂泥、土師器片含
- 2 10YR3/4 暗褐色砂泥、10YR6/6 明黄褐色泥砂混、炭含
- 3 10YR3/3 暗褐色砂泥
- 4 2.5Y6/4 明黄褐色砂泥

図8 1区溝43断面図（1：40）

平安時代中期から後期（11～12世紀）

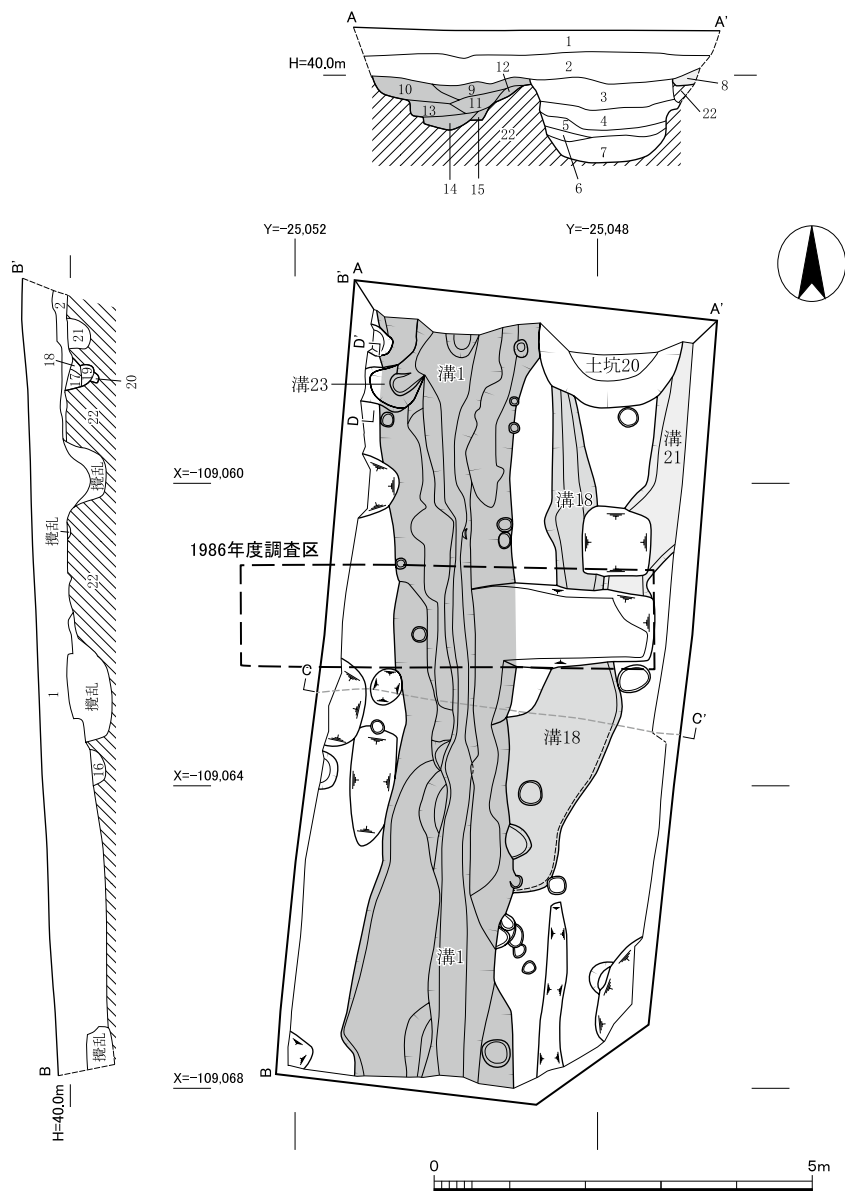
溝34 溝36の上面で検出した。1区南端から3.7m北で止まる。幅は0.4m、深さは0.2mある。埋土は砂礫を極めて多く含む。

溝36 溝1の東隣に位置し、調査区全域で検出した南北溝である。溝1を切っている。規模は、幅1.0～2.0m、深さは北壁付近で0.5mある。埋土には砂礫が多く含まれる。

溝40 溝36の東隣に位置する南北溝である。調査区の南北全域で10.2m分を検出した。規模は、幅0.5～1.0m、深さ0.03～0.1mある。埋土は砂礫層からなる。

鎌倉時代

溝62 溝40の東隣で検出した南北方向の溝である。調査区東側の凸部で4.6m分検出した。規模は、幅0.5m、深さ0.4mある。埋土上層が砂礫で下層は砂泥である。龍泉窯系の青磁が出土している。



- 1 盛土
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色砂泥、 ϕ 0.5~5cmの礫中量含
 - 3 7.5YR3/3 暗褐色砂泥、小礫・炭・焼土・土師器片含
 - 4 7.5YR3/2 黒褐色砂泥、炭・焼土含
 - 5 7.5YR3/4 暗褐色砂泥、炭・焼土含
 - 6 7.5YR4/2 灰褐色泥砂
 - 7 10YR3/2 黒褐色砂泥、炭・焼土含
 - 8 10YR5/4 にぶい黄褐色砂泥、焼土含 【溝21】
 - 9 10YR4/4 褐色砂泥、焼土含
 - 10 10YR3/4 暗褐色泥砂、炭・焼土含
 - 11 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂、小礫・焼土・瓦含
 - 12 10YR5/4 にぶい黄褐色泥砂
 - 13 10YR4/4 褐色泥砂、炭・焼土含
 - 14 10YR4/2 灰黄褐色泥砂、炭含
 - 15 10YR4/3 にぶい黄褐色泥砂
 - 16 10YR4/4 褐色砂泥 【柱穴17】
 - 17 7.5YR3/3 暗褐色砂泥、小礫・炭・焼土含
 - 18 7.5YR4/4 褐色泥砂
 - 19 10YR5/2 黄褐色砂泥
 - 20 10YR5/4 にぶい黄褐色泥砂
 - 21 7.5YR4/3 褐色砂泥、炭・焼土含
 - 22 10YR4/3 にぶい黄褐色砂礫 【地山】
- 【土坑20】
- 【溝1】
- 【溝23】

図9 2区遺構実測図 (1:100)

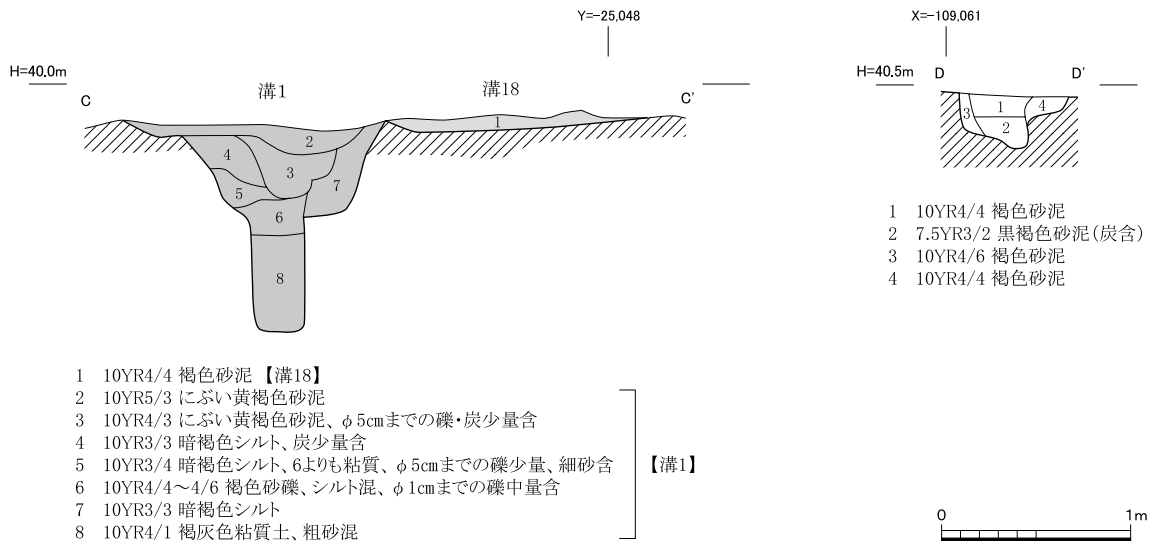


図10 2区溝1・18・23断面図(1:40)

(3) 2区の遺構(図9、図版2)

平安時代前期から中期(9~10世紀)

溝1(図10、図版3) 1区で検出した溝1の続きと考えられる溝である。規模は、幅2.0m前後、深さは北壁で0.7m、南北は10.2m分を検出した。中央部から南では、溝の底部が深く穿たれており、南壁付近で幅1.3m、深さ1.1mある。この部分は地山が、粘質土で浸食を受けやすかったためと考えられる。

溝23(図10、図版3) 調査区北西部の築地想定線付近で検出した東西溝である。南北0.4m、東西0.8m、深さは西壁付近で0.4mある。溝23は溝1に切られており、西から東の方向に下がっている。宅地からの排水施設と思われる。

平安時代中期から後期(11~12世紀)

溝18(図10) 溝1の東側で検出した南北溝である。検出した規模は南北7.2m、幅0.2~1.2m、深さは北端付近で0.2mある。北端は土坑20に切られている。南側では幅が広がるが、浅くなり南壁から2.5m北で消滅している。砂礫で埋まっている。

溝21 調査区の東端で南北3.4m分を検出した。北側は土坑20に部分的に切られるが調査区外に延びる。南側では浅くなり消滅している。深さ0.1m、幅0.1~0.9mある。

鎌倉時代

土坑20(図版3) 調査区北端で検出した土坑である。北側は調査区外に伸びる。検出した規模は東西2.0m、南北0.7mある。水の滞留を示す暗灰色の堆積土がみられ、耕作に関連する施設(肥溜または水溜)の可能性はある。

4. 遺物

(1) 遺物の概要

遺物はコンテナに16箱ある。土器類は16箱で、瓦類は少ない。土器類は大半が平安時代前半のもので、溝1からの出土である。

平安時代前期から中期のものには、土師器皿・杯、須恵器壺・甕・高杯・硯、黒色土器椀、緑釉陶器椀・皿、灰釉陶器椀・皿、輸入陶磁器椀などがある。

鎌倉時代のものには、土師器皿、焼締陶器甕、輸入陶磁器椀などがある。

(2) 土器類 (図11・12)

溝1出土土器(1～16) 1・2は土師器皿である。両者ともに器厚0.2cm内外で薄く、口縁部は外反し端部はつまみあげている。1は口径11.4cm、高さ1.5cmある。2は口径15.6cm、高さ2.2cm以上ある。

3は黒色土器椀である。簡易な断面三角形の高台を貼り付ける。内面および外面の上半部が黒色化して内面にミガキを施している。

4は白色土器椀である。底部外面は削り出し輪高台。焼成は軟質で、胎土は密で黄灰色である。

5～11は緑釉陶器である。5～8は椀で、9・10は皿、11は耳皿である。5は底部外面は削り出し輪高台。焼成は堅く、胎土は密で青灰色、釉調は淡い緑色で、暈付け以外の全面に釉が掛かる。京都産である。6は底部外面は削り出し輪高台。焼成は堅く、胎土は密で青灰色、釉調は暗緑色、全面に釉を施す。見込みには簡素な陰刻花文が描かれる。京都洛西産と思われる。7は口径11.4cm、高さ3.0cmで、底部外面は貼り付け輪高台。焼成は堅く、胎土は密で灰色、釉調は黄緑色、全面に釉が掛かる。高台端部は2段になっている。美濃産と思われる。8は底部外面は貼り付け輪高台。焼成は堅く、胎土は密で青灰色、釉調は黄緑色で、全面に釉が掛かる。高台端部は2段になっている。美濃産と思われる。9は底部外面は削り出し輪高台。焼成は軟質で、胎土は密で黄灰色、釉調は淡緑色、全面に釉が掛かる。京都洛北産と思われる。10は口径11.2cm、高さ2.0cmで、底部外面

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代前期～中期	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、白色土器、輸入陶磁器、瓦		土師器2点、黒色土器1点、白色土器1点、緑釉陶器7点、灰釉陶器3点、須恵器2点		
鎌倉時代	土師器、焼締陶器、輸入陶磁器		土師器2点、輸入陶磁器1点		
合計		17箱	19点(1箱)	14箱	2箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

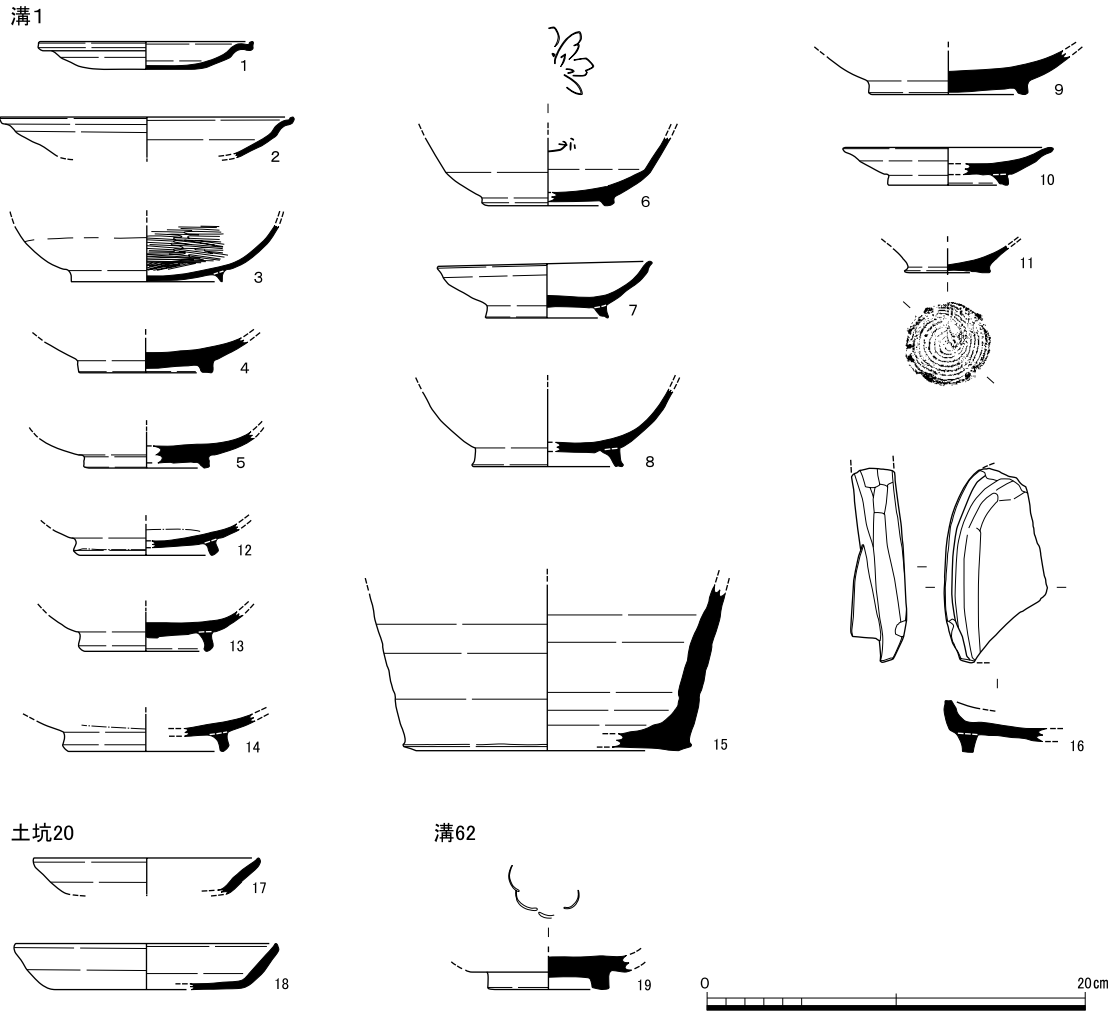


図11 出土土器実測図（1：4）

は貼り付け輪高台。焼成は軟質で、胎土は密で黄灰色、釉調は明緑色、全面に釉が掛かる、高台端部は2段になっている。近江産と思われる。11は底部に糸切りの痕跡が残る。焼成は軟質で、胎土は密で灰褐色、釉調は黄緑色、底部外面を除いて釉を施す。

12～14は灰釉陶器である。12・13は碗で、14は皿である。12は底部外面は貼り付け輪高台。断面は外傾している。焼成は堅く、胎土は密で灰色、釉調は黄灰色、底部内面と高台内面を除いた部位に釉を浸け掛けにより施す。東海産と思われる。13は底部外面は貼り付け輪高台。断面は内湾する。焼成は堅く、胎土は密で灰色、釉調は淡灰色、底部内面と高台内面を除いた部位に釉が掛かる。東海産と思われる。14は底部外面は貼り付け輪高台。断面はやや外傾する。焼成は堅く、胎土は密で明灰色、釉調は淡緑色、高台内面以外に釉を浸け掛けにより施す。底部内面に輪状の重ね焼き痕が残る。東海産と思われる。

15は須恵器壺の底部である。体部が直線的に立ち上がり、短頸壺と思われる。16は須恵器の風字硯である。端部は篋で面取りを施す。幅広い三角形の脚部を貼り付ける。

以上の土器群は、平安時代前期から中期までに収まる。

土坑20出土土器（17・18） 17・18は土師器皿である。17は口径12.0cm、高さ1.9cmある。体部

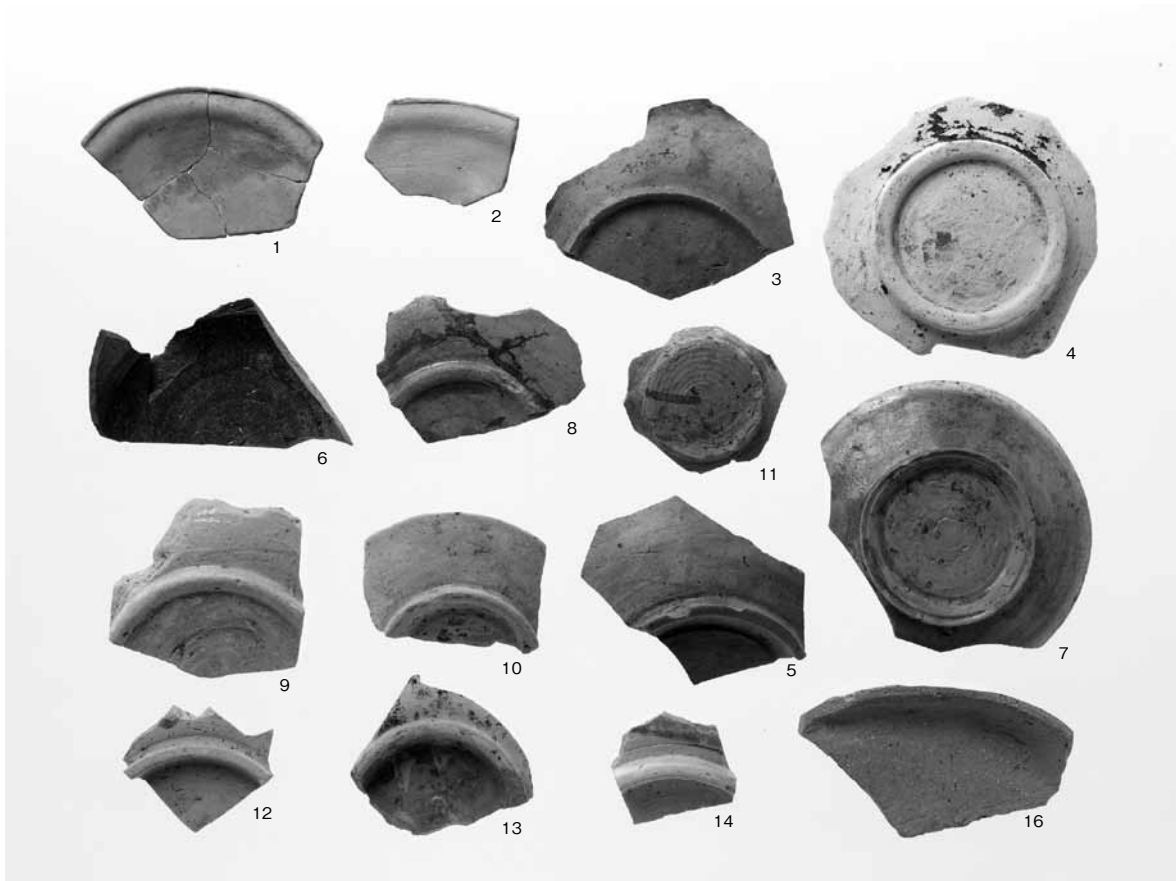


図12 溝1出土土器

は外反し端部が丸くおさまる。18は口径14.0cm、高さ2.4cmある。体部は内湾気味に立ち上がり、端部は上方につまみ上げる。鎌倉時代前期に収まる。

溝62出土土器(19) 19は輸入陶磁器碗である。全面に灰緑色の釉が施される。底部内面には簡易な花文が陰刻される。龍泉窯系で、鎌倉時代のものである。

5. まとめ

(1) 本年度調査

本調査では、これまでの調査と同様、平安時代前期から中期の恵止利小路西側溝を検出した。また、恵止利小路の路面推定地では平安時代後期から鎌倉時代の2～3条の溝や肥溜または水溜を検出した。また、小路西側の十五町東端部の築地推定線では平安時代前期から中期の柱列や排水路と思われる東西溝を検出した。

調査区西端で検出した溝1は恵止利小路西側溝に該当し、平安時代前期から中期に埋没したとみられる。溝1東隣の路面推定地に展開する2区の溝18や溝21、1区の溝34・36・40は平安時代中期から後期の西側溝と思われる。また、1区東端では鎌倉時代の溝62を検出している。以上のように、今回の調査でも西側溝が順次東へ移動し、路面が縮小されていく変遷を確認した。

(2) 2011～2013年度調査（図13～17）

西小路拡幅に伴う調査は、2011年度（その1）調査から2013年度（その3）調査までを行った。2011年度（その1）調査は1区～6区、2012年度（その2）調査は1区～7区、2013年度（その3）調査は1区・2区を設定した。なお、掲載した調査区配置図（図13～17）は、京都市建設局道路建設部道路建設課作成の西小路道路計画図（一部改変）に調査区を貼付したもので、既往調査の表記方法と同じく最終遺構面での平面図とした。調査区内で検出した恵止利小路西側溝は、所々現代の攪乱などにより断絶した部分もあるが、全体的には連続して検出されている。検出した溝を簡潔に表示するため、西端の西側溝推定線に近接して検出している平安時代前期から中期の溝（A群）、その東側の中央部で検出している平安時代中期から後期の溝群（B群）、さらに東側で検出している鎌倉時代以降の溝群（C群）に大別して、以下A群・B群・C群と呼称する。

2011年度（その1）調査（表1-17） 調査区は恵止利小路西側部分であり、その西側の宅地相当部分は右京一条三坊十三町、二条三坊十六町内にあたる。

1区（図13）では古い段階A・B群の溝は認められず、C群の溝3条と土坑を検出している。北部で西壁外へ延びる溝は、南西方向に流れており取水口の可能性がある。2区（図13）ではC群の4条の南北溝を検出している。1・2区間での調査3（表1-3）4B区では調査区東端で2条の南北溝が検出されている。1区の南北溝と繋がると思われる。3区（図13）では平安時代の路面およびC群の溝5条を検出している。中御門大路との交差部にあたり、東西方向の溝2条は、中御門大路北側溝推定ラインより約9m南で重複して検出した。溝底は東が高いことから、西流していたと思われる。調査区北側の南北方向の溝は検出した礫敷（路面）の北側で止まっており、恵止利小路西側溝は縦断しないと推察した。路面は1～2cmの礫を敷いた状態で検出した。路面上面には東西方向に平行する4条の凹みがみられ、轍跡の可能性がある。4区（図14）では8条の溝を検出した。北トレンチで検出したB群の東西溝は、中御門大路の南側溝と考えられる。その他の溝は江戸

時代である。南トレンチ調査区西端で検出した南北溝はA群である。その他はC群の溝である。5区(図14)では溝を10条検出した。5区南北トレンチ西端にA群の溝が、その東隣にB群の溝が検出されている。さらにその東側の溝群はC群のものである。残存幅が狭い路面を2箇所検出したが、西側路面は南トレンチではみられない。6区では9条の溝を検出した。これらの溝はすべて5区で検出した溝の南延長である。路面は検出されていない。

2012年度(その2)調査(表1-18) 恵止利小路西側部とその西側の宅地部が一部含まれる。西側の宅地相当部は右京二条十六町、二条三坊十五町内にあたる。

1区(図15)では11条の南北溝を検出した。これらの溝群は上述した2011年度調査の6区溝群にほぼ対応する。2区(図15)では6条の溝を検出した。1区溝群の南延長で春日小路北側に位置する。調査区北西部で検出した東西溝は宅地からの排水溝の可能性ある。3区(図15)は春日小路との交差点にあたり、路面を検出した。路面は径1cmほどの褐色砂礫で敷き詰められていた。4区(図16)では12条の溝と落ち込みを検出した。調査区の北端部は春日小路南側溝推定線付近にあたる。西側の溝群はA群で、東側の溝群はC群である。西寄りの南北溝は調査区北端部で立ち上がっており、春日小路路面を縦断しない。また、春日小路南築地推定線より南7mの位置で検出した東西溝は宅地からの排水溝の可能性ある。5区(図16)では4条の溝を検出した。西側の溝はA群、中央の溝がB群、東側の溝はC群である。6区(図17)では4条の溝を検出した。中央部の溝はA群、東側の溝はC群に属する。また、二条三坊十五町宅地の東境界を含み、東一行北六門の東端で、門、埋納遺構2基、橋脚、井戸を、また東一行北七門の東端では柱穴群2列、土坑、排水溝などを検出した。7区(図17)では路面、落ち込みを検出した。路面は、褐灰色粗砂により面を形成していた。

2013年度(その3)調査(本年度) 恵止利小路西側部と西側の宅地部が一部含まれる。西側の宅地相当部は右京二条三坊十五町内にあたる。

1区(図16)では溝5条を検出した。西側にA群の溝、および中央にB群の溝、東端にC群の溝が認められる。西側の宅地部からは柱穴列や宅地からの排水溝を検出している。2区(図16・17)では3条の溝と土坑および宅地部からの排水溝を検出している。西側の溝はA群で、東側の2条の溝はC群である。

以上、これまでの調査から得られた成果を以下にまとめる。

今回までの調査区全域での南北溝は3時期に分けられ、既往の調査と同様に恵止利小路西側溝が時代を経るに従い東側へ移動している状況をつかむことができた。これまでの調査でも指摘されたように、平安時代中期には右京域の宅地が廃れ、宅地内での耕作地化の拡大・進行(巷所化)により路面が縮小していった様相の一端を示しているものと思われる。

また、既述したように西小路通の調査から、中御門大路、春日小路との交差部推定地においては恵止利小路西側溝が交差部の路面を縦断しないことが判明し、中御門大路側溝の検出事例に見られるように東西路の側溝が横断しており、道路側溝の排水を西方へ誘導していることが明らかとなった。

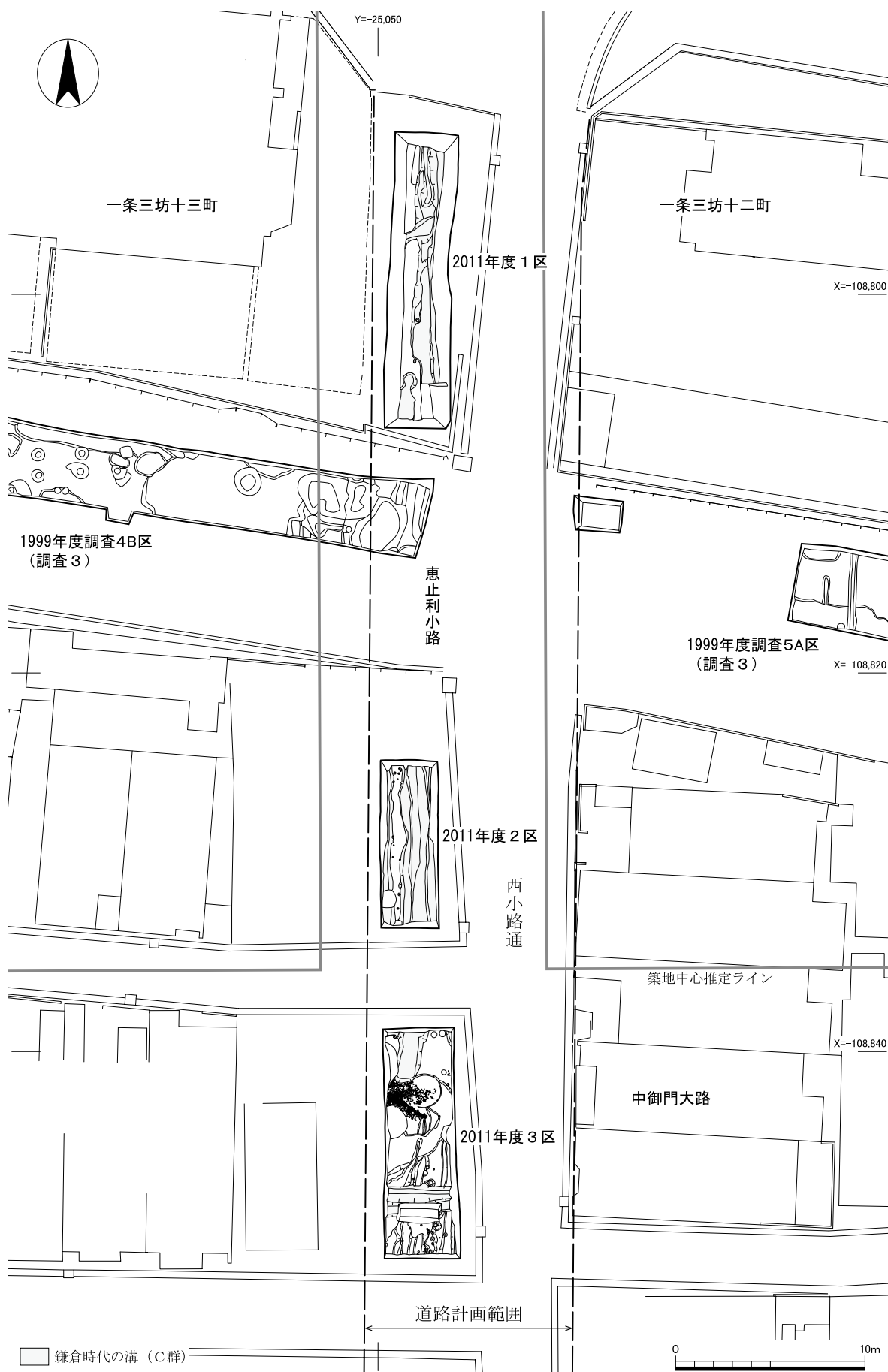


図13 2011～2013年度調査区配置図1 (1:300)

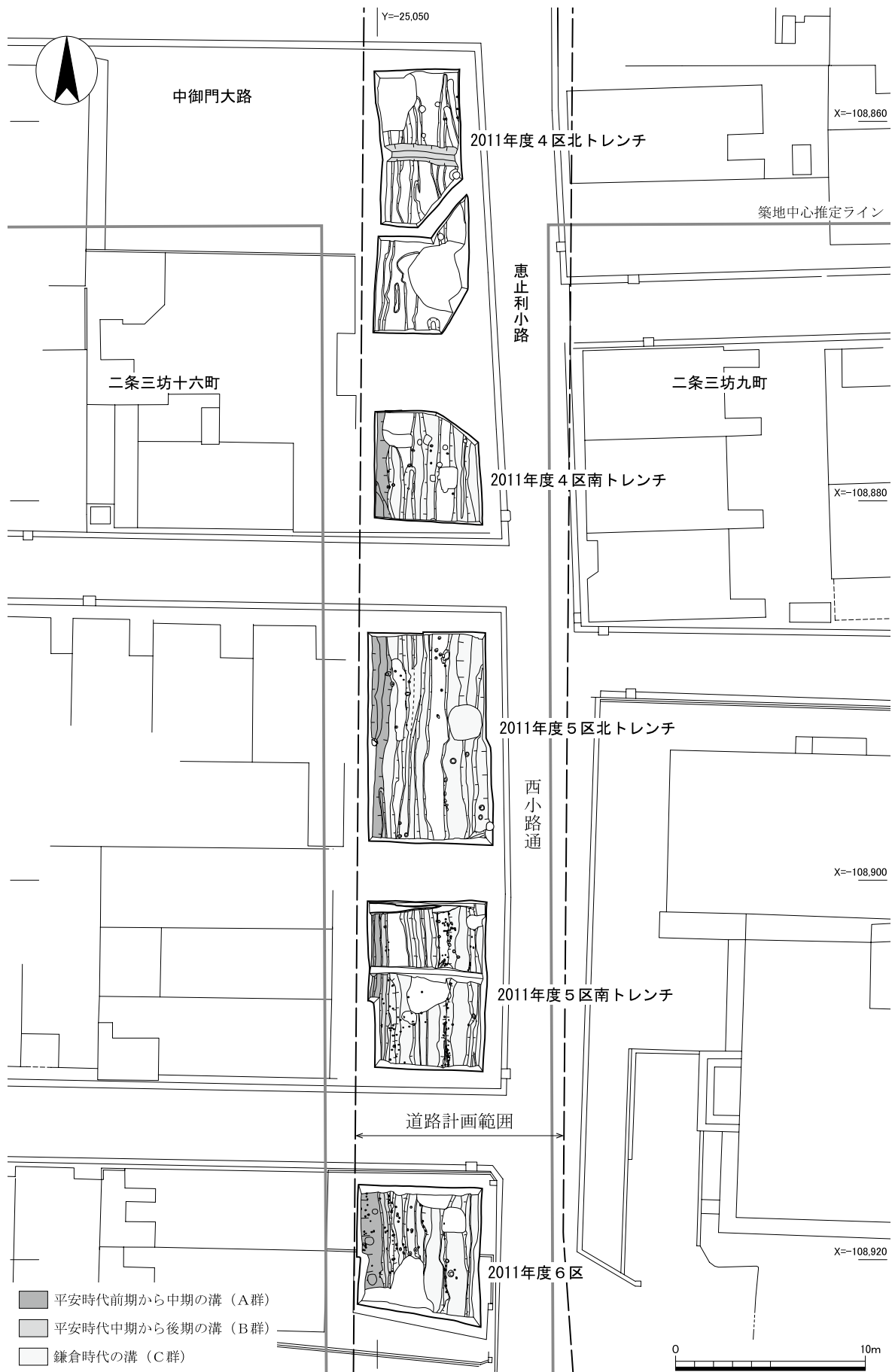


図14 2011～2013年度調査区配置図2 (1:300)

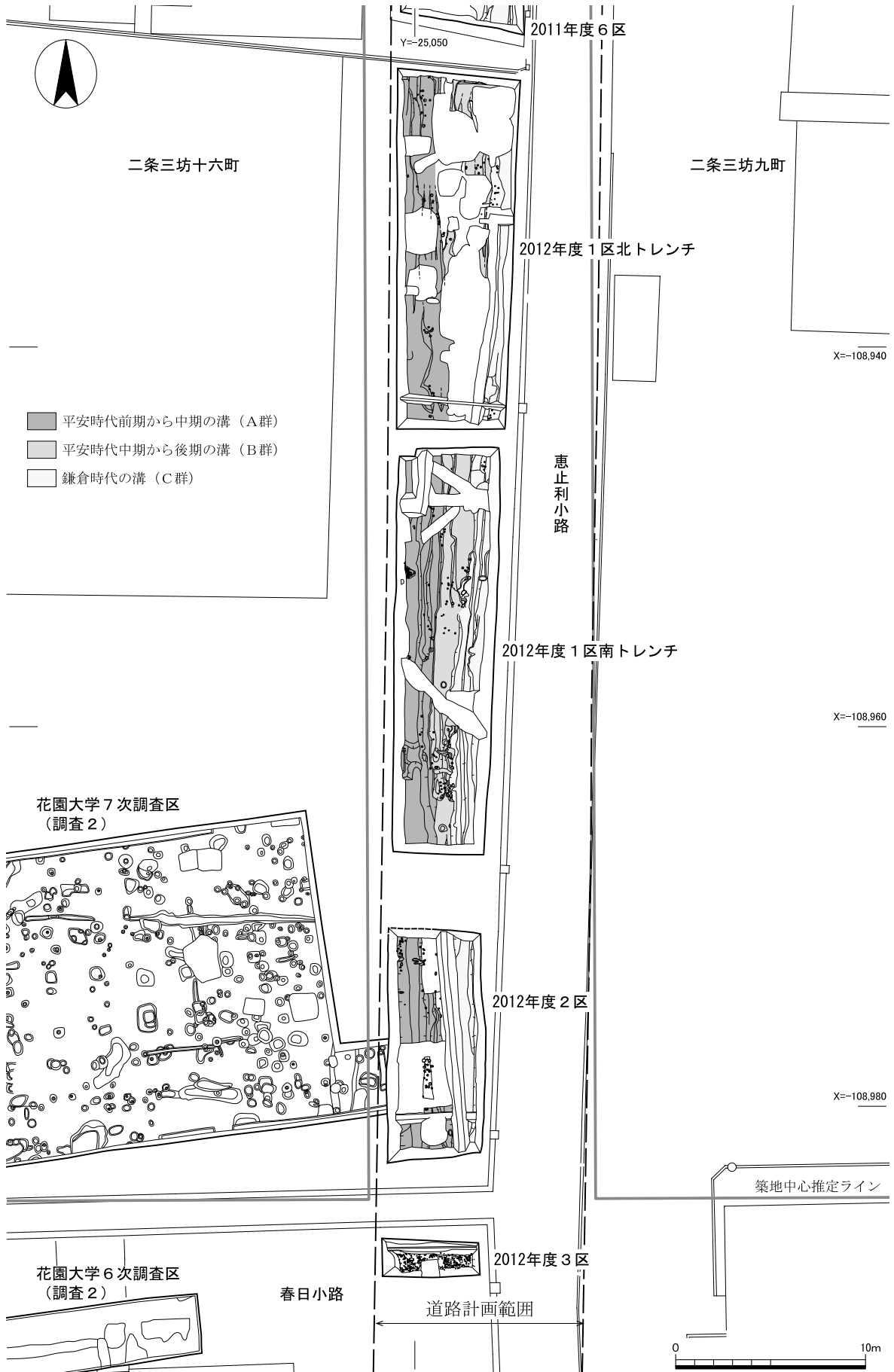


図15 2011～2013年度調査区配置図3 (1:300)

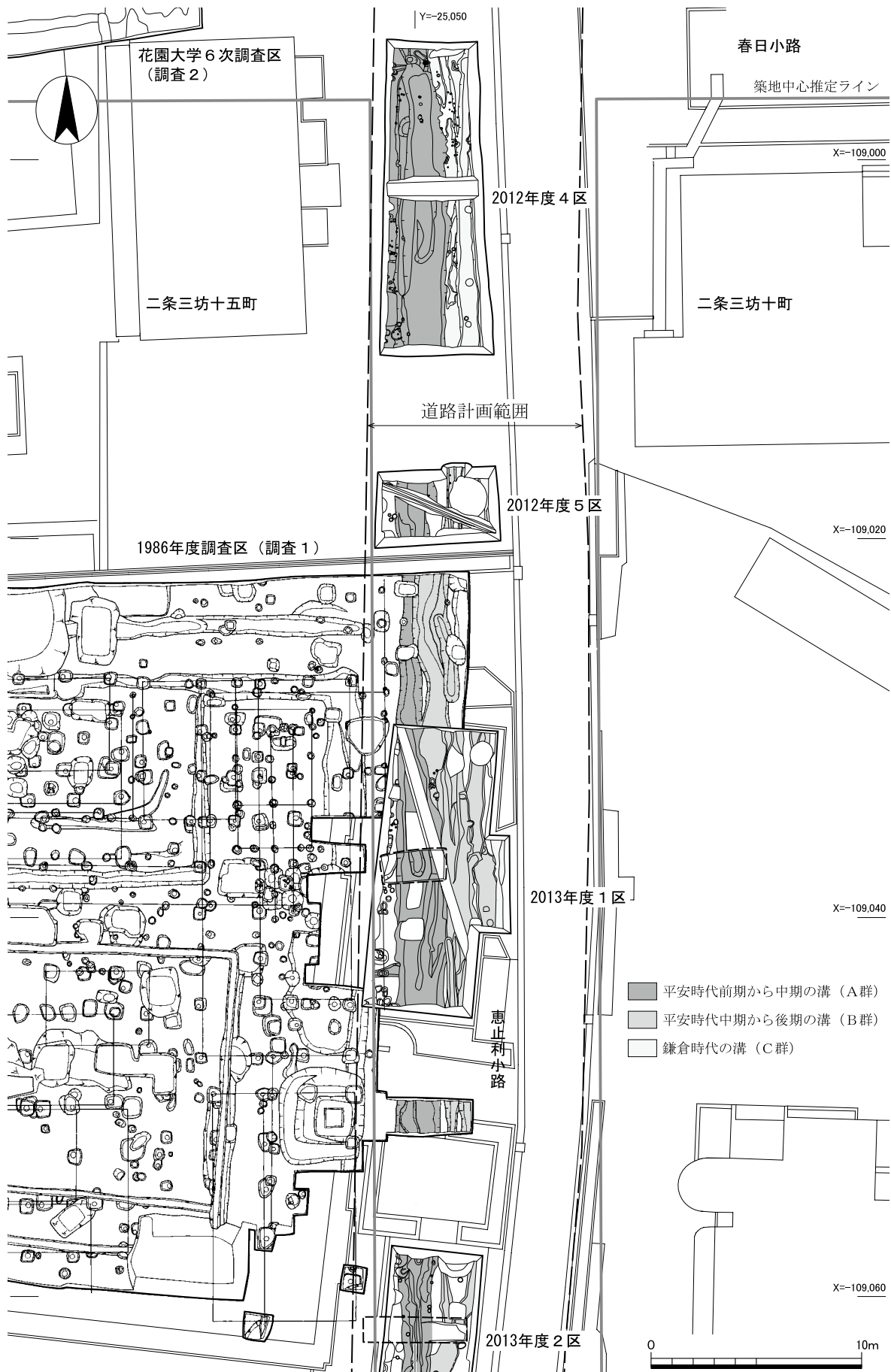


図16 2011～2013年度調査区配置図4 (1:300)

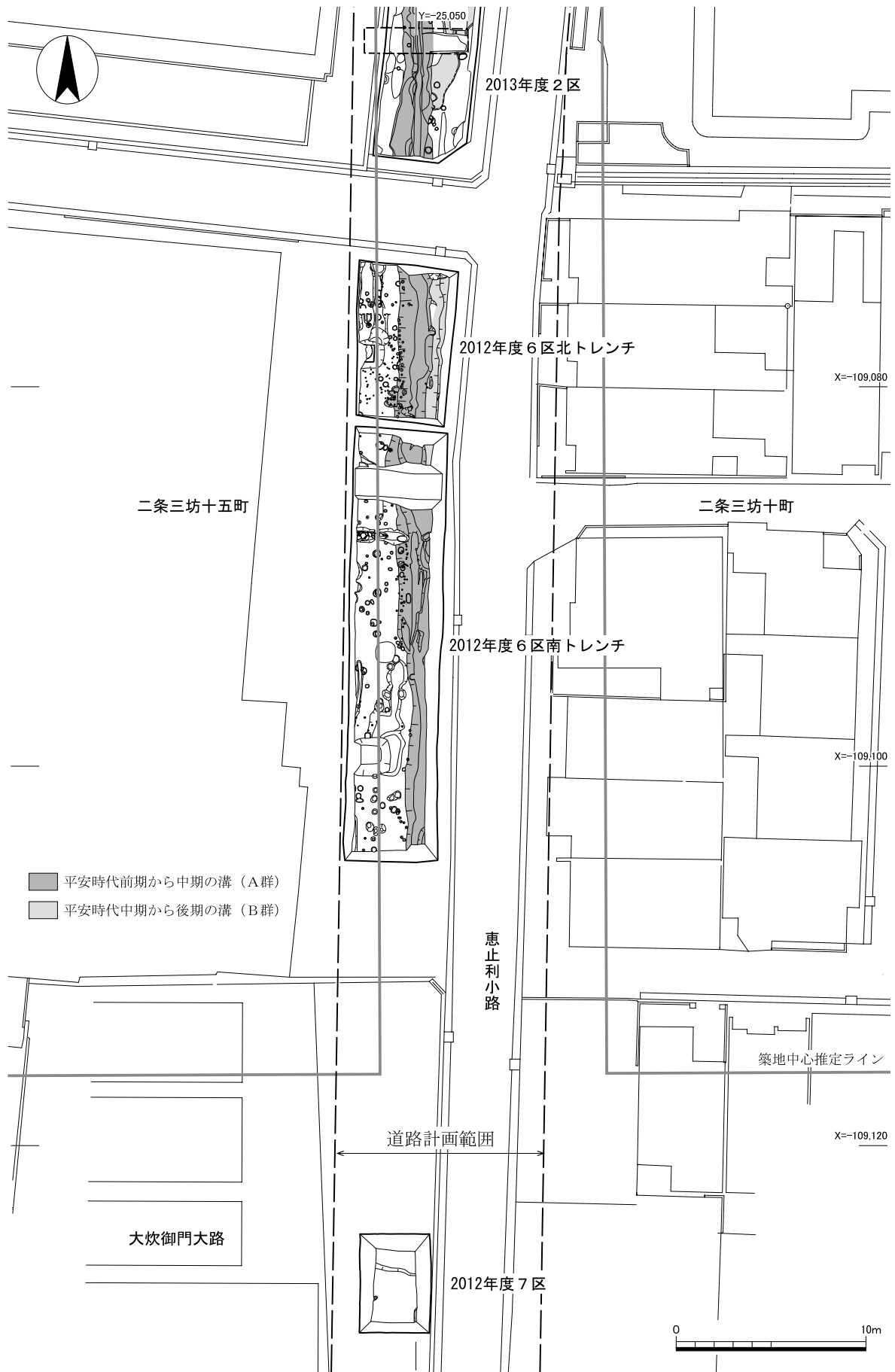


図17 2011～2013年度調査区配置図5 (1:300)

さらに、今回までの調査での出土遺物においては、国産の施釉陶器および輸入陶磁器の出土比率が高い。特に、輸入陶磁器の出土比率・傾向は、1986年度の十五町内の調査地（今回調査の西隣接地：表1-1）とほぼ同一であり、その内に優品類が6割以上を占める。このことは十五町に居住する人物が比較的高位な階層に属していたことを示していると考えられる。

今回の調査で論及できなかった諸点については、今後の周辺調査に委ねたい。

参考文献

地学団体研究会編『京都五億年の旅』 法律文化社 1978年

石田志郎「京都盆地北部の扇状地－平安京遷都時の京都の地勢－」『古代文化』34-12号 財団法人古代学協会 1982年

財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安京提要』 角川書店 1994年

財団法人古代学協会・古代学研究所編『平安時代史辞典』 角川書店 1994年

圖 版



1 1区南半全景（北東から）

2 1区北半全景（北西から）



1 2区南半全景（北から）



2 2区北半全景（南から）



1 1区南半 溝43 (東から)



2 2区南半 溝1 (南から)



3 2区北半 溝23 (東から)



4 2区北半 土坑20 (東から)

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょううきょうにじょうさんぼうじゅうごちょうあと							
書名	平安京右京二条三坊十五町跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2013-6							
編著者名	津々池惣一							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2013年12月27日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡	きょうとしうきょうく 京都市右京区 はなぞのかずがちよう 花園春日町 ちない 地内	26100	1	35度 01分 01秒	135度 43分 32秒	2013年7月 16日～2013 年8月28日	144㎡	道路拡幅 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡	都城跡	平安時代前期 ～中期	溝、柱列	土師器、須恵器、緑釉 陶器、灰釉陶器、黒色 土器、白色土器、輸入 陶磁器、瓦		恵止利小路西側溝 および関連施設を 検出した。		
		平安時代中期 ～後期	溝					
		鎌倉時代	溝、土坑	土師器、焼締陶器、輸 入陶磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2013-6
平安京右京二条三坊十五町跡

発行日 2013年12月27日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961